

2020年 三つ峠山で春一番を体験した

豊中労山 羽馬芳壽

コースタイム

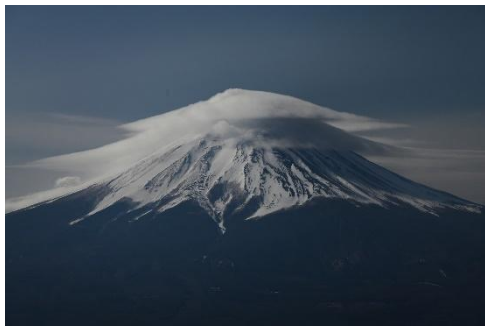
3月22日 河口湖駅 9:35 → 天下茶屋 9:05/9:12 → 登山口駐車場 9:16/9:29 → 三つ峠山荘 9:49 (22日、23日 連泊)

24日 山荘 8:12 → 屏風岩 8:37 → 一字一石供養塔 8:47 → 八十八大師 9:11 → 愛染明王 8:43 → 達磨石 10:28 → 富士急三つ峠駅 11:40

冬の三つ峠で富士を撮りたい、当初は1月31日発。会社から帰宅後、ザックに詰めて準備万端、というところで小屋の親父さんから電話があった。積雪が多くてバスが登山口まで入れないと。国道から除雪していない道を歩き、さらに小屋まではつらいので中止。

計画を伸ばしての出発前、家内が雪を心配して、小屋のジープに便乗することとした。

22日朝に河口湖に着くとすぐに親父さんから電話があり、息子さんが駐車場で待っているとのこと。駐車場で軽トラに乗せてもらう。荷台にザックを積もうとしたら、真っ黒けの甲斐犬、カコちゃんがお座りしていた。



二重のベールのような笠雲

お世話になりついでと厚かましく天下茶屋まで回ってもらい、まずは笠雲の富士を写す。登山口駐車場は一般登山者の車は一台もない。ここで、タイヤ4本にチェーンを巻いたジープに乗り換えて、アイスバーンの急坂を「ガガガ」と音を立て登っていく。

ツルツルに凍ったところは登り切れず、バックして加速をつけて登る。

小屋に着くと富士は二重の笠雲。開運山の頂上へ行くと、笠雲はまだしっかりと富士の上であり、その東には珍しい「吊るし雲」がでていた。これだけで今回の山行の元は取れた。

笠雲は天気崩れる前触れ。その法則は裏切らず、昼過ぎから曇って雨となった。南風が強く吹きだした。「春一番」である。

午後10時ころ外を見ると星空。23日の朝は快晴で、富士の頂上から雪煙が舞っていた。三つ峠での昨日の雨は、富士山頂で積雪だったのだろう。これも写真に収めると嬉しさがこみあげてきた。23日中は雲一つない青空。三つ峠山自体は雪が少なく、不満と言えば不満だが贅沢をいうと罰が当たる。

24日も快晴。富士急行の三つ峠駅へ下る。標高差1170m、山道の尽きた達磨石から振り返ると、開運山の三つの岩峰が並んで見える。昔の人はこれを三つ峠山と呼んだそうである。開運山、御巢鷹山、木梨山を三つ峠山というのは後のガイドブックによるそうである。



三つのトンガリが三つ峠の由来